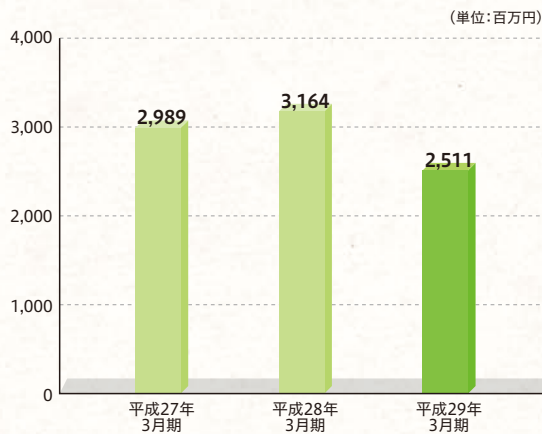


業績ハイライト（単体）

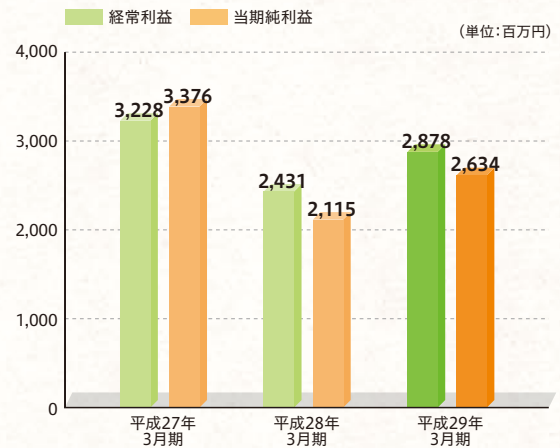
コア業務純益の状況

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、役務取引等利益の減少に加え、経費の増加などから、前年同期比6億53百万円減少の25億11百万円（増減率△20.6%）となりました。



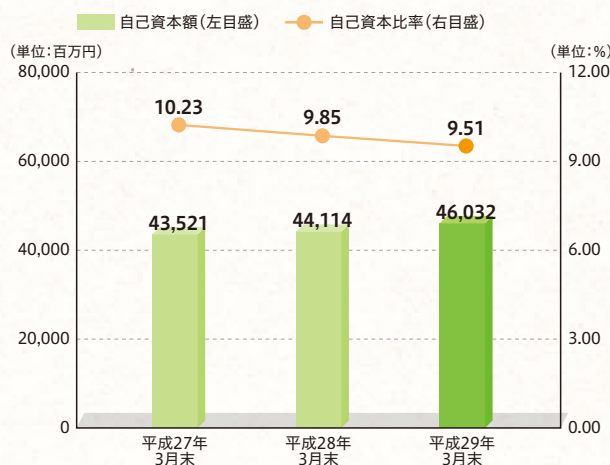
経常利益・当期純利益の状況

経常利益は、前年同期比4億46百万円増加の28億78百万円、当期純利益は、前年同期比5億19百万円増加の26億34百万円となりました。



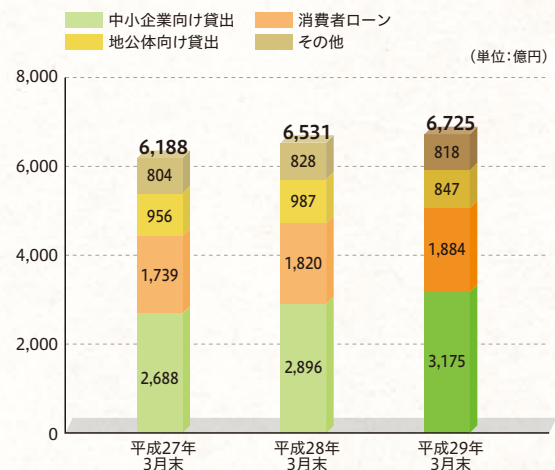
自己資本比率の状況

自己資本比率は、当期純利益を26億34百万円計上したことで自己資本額（分子）が増加した一方で、貸出金残高の増加に伴いリスクアセット（分母）が増加したことなどから、平成28年3月末比0.34ポイント低下の9.51%となりました。



貸出金の状況

貸出金残高は、本業支援を通じてお客さまの資金需要へ積極的に対応し、中小企業向け貸出や住宅ローン、個人ローンが増加したことから、平成28年3月末比193億75百万円増加の6,725億62百万円となりました。

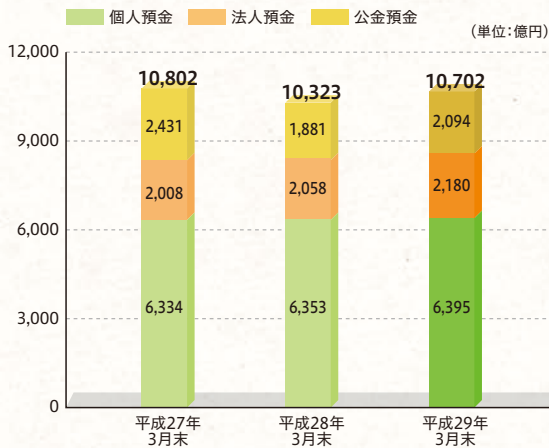


用語解説

■ **コア業務純益** 「業務純益」から「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券損益」を除いたものです。分かりやすく言えば、資金運用収益と調達費用の差額である資金運用収支と、送金手数料等の手数料収支から、営業経費を引いた、いわゆる銀行本業部分の収支のことを指します。

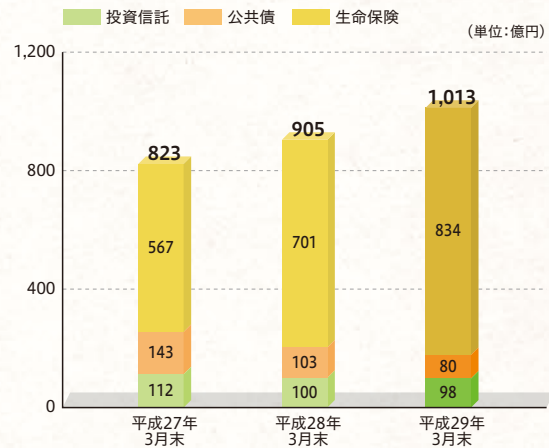
預金(譲渡性預金を含む)の状況

預金残高は、個人・法人・公金預金のすべてが増加し、平成28年3月末比379億70百万円増加の1兆702億円となりました。



預かり資産の状況

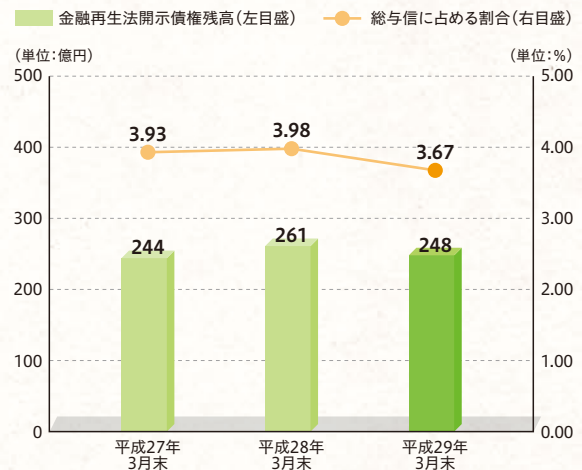
預かり資産残高は、お客さまの資産運用ニーズへの対応により、生命保険残高が増加したことなどから、平成28年3月末比108億3百万円増加の1,013億32百万円となりました。



金融再生法開示債権の状況

金融再生法に基づく開示債権の残高は、リスク管理債権の回収等により、平成28年3月末比13億83百万円減少の248億12百万円となりました。総与信額に占める割合は、平成28年3月末比0.31ポイント低下の3.67%となりました。

金融再生法開示債権残高および総与信に占める割合



- 経常利益 「業務純益」から「株式売買損益」や「個別貸倒引当金繰入額」などの臨時損益を加減した利益を指します。
- 当期純利益 「経常利益」に「特別利益」と「特別損失」、そして法人税等の税金を加減した利益を指します。

※金額は単位未満を切り捨てて表示しております。